

2009/04/13 (mon)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「40代向け活動量計」
- 2) 「トリプルキーパー」
- 3) 「しんきゅうさん」

1) 「40代向け活動量計」

タニタは、動きを検知することで消費カロリーを計測する活動量計「カロリズム」を4月1日に発売した。歩行時以外でも家事や仕事など、1日の活動量全体を把握できるという。無理せずに健康を維持したいという40代の男女を中心顧客に据えて売り込む。

新製品は3軸加速度センサーを内蔵。歩数計と同様に歩数を計るほか、掃除や洗濯、パソコン入力などで生じる身体の動きも検出して消費カロリーを推定する。運動の強さを安静時と比較して表す単位「メッツ」の表示機能も備え、厚生労働省が設けた1週間あたりの運動目標量にどの程度達したかも分かる。価格はオープンで店頭実勢は8000円前後になるもよう。

これまで様々な測定器が販売されてきたが、万歩計やペースメーカーのように「歩く・走る」以外の日常の動きにも対応しているというのは嬉しい機能だと思う。いちいち消費カロリーやメッツを自分で計測するのは多くの人が敬遠すると思うが、これをつけて一つ一つの動作での消費カロリーが目に見えれば注意するようになり、またやる気を起こして健康管理に気を遣う人も増えるのではないかな。

2) 「トリプルキーパー」

韓国洋酒メーカーのペルノ・リカール・コリアが国内で出回る偽洋酒防止のために開発した装置。ふたをひねる音と感触に特徴があるほか、開封すると「正品」という表示が現れる。同社の高級国産ウイスキー「インペリアル」に装着している。

偽洋酒は高級洋酒の空き瓶に安い洋酒を入れ直して、新品のように装って販売されることが多い。そこで他メーカーでも、開封すると内部のおもりが分離し、再使用ができなくなるふたや特殊なラベルなどを開発している。

韓国では流通量の10%が偽洋酒といわれるほどで、韓国国税庁も本物かどうかを確認できる電子タグを高級洋酒につける試験などを行っている。

食品偽装は権利の侵害だけでなく安全性を問われる。流通業界の抱える最も大きな問題の一つだ。このような電子化などで根絶やしにしなければならない。

3) 「しんきゅうさん」

環境省がインターネット上に開いた、古い家電と新しい家電の省エネ性能を比べられるサイト。例えばブラウン管テレビから薄型の液晶テレビに買い替えたときの年間の電気代や二酸化炭素排出量がどのくらい違うかを確認できる。型番の指定もでき、携帯電話でも見ることができる。2009年2月から本格的運用が始まり、環境省は家電量販店や家電メーカーと協力して、サイトにつながるQRコードを売り場に掲示することになっている。

消費者が携帯電話を使ってその場でサイトに接続し、省エネ性能を比べてもらえるようにするよう携帯にも対応。目に見える数値で示すことで家電製品の「エコ替え」促進につなげたい考えだ。